

2020 9/8

No.2122

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



横浜市開港記念会館（横浜市中区）には歴史的に価値のあるステンドグラスが多い。2階広間にある開港当時の交通に関する大きなステンドグラスは、左が「呉越同舟」、右が「箱根越え」、中央上は「鳳凰」を表現する。



contents

視点点描	3
地方メディアが存在感	
講演録	4
新型コロナ禍を越える ～中小企業は何をすべきか 中小企業基盤整備機構理事長 豊永 厚志	
政治双眼鏡	7
大転換期迎えた政界 変化の時こそ野党の出番	
政 治	8
レガシーなき長期政権の終わり 任期途中で退陣する安倍首相	
新型コロナウイルス	12
応援職員の派遣態勢広がる 福祉施設、コロナ感染に備え	
くらし2020	14
熱中症予防システム開発進む	
アジアの風	16
看護師不足で比が海外就労禁止	
NNAアジア経済レポート	17
神奈川景気データファイル	18
神奈川景気データファイル	19

事務局だより

◇2020年9月定例講演会

2020年9月30日(水)

午後1時30分～3時

ホテルニューグランド タワー
館3階「ペリー来航の間」

講師は(株)ヨロズ代表取締役
会長の志藤昭彦氏

演題は「コロナ禍とヨロズのグ
ローバル経営」

【名義変更】▽ホテル横浜キャメ
ロットジャパン：塩見洋・総支配
人（一色靖・同）＝8月1日▽（株）
旭広告社：中谷忠宏・代表取締役
社長（三枝幸雄・名誉会長）＝8
月27日

【訂正】2020年度会員名簿で、(株)
日新相談役は筒井博氏の誤りでし
た。訂正します。

視点 点描



地方メディアが存在感

厳しさを増す業界の環境からだろうか。各メディアのデジタル部門担当者が業種を越えて連携を試みる機会が、急速に増えている。

折しも戦後75年。「体験者の高齢化が進む中、今までとは違った形で、記憶の語り継ぎを探りたい」。

そんな提案が出されたのは6月、筆者を含めた各メディアの50人ほどが参加したオンラインミーティ

ングでのことだ。

切り口は、2016年に公開されたアニメ映画「この世界の片隅に」。戦時下の広島・呉で、一家に嫁いだ少女、さすが、戦禍の激しくなる日々を懸命に生きる姿を描く。

戦地の厳しい体験だけでなく、あの時代の何げない暮らしにも、今の若い人々が思いを重ねられる

糸口があるのでは。提案したNHKの呼びかけに、神奈川新聞を含めた地方紙8社が応じた。それぞれの読者から体験談を募り、共通のハッシュタグをつけて、SNSで拡散していくキャンペーン。「#あちこちのすずさん」と名付けられた。

神奈川新聞の紙面とウェブサイトに「カナロコ」で読者から投稿を募ると、予想以上のエピソードが寄せられた。

「空襲で家が焼けて、食べ物がない。農家の土蔵に収めてあったジャガイモが蒸し焼きになっていたので、分けてもらった」

「女学生が窓から兵隊の行進を眺めていると、隊列が曲がってこちらに向かってきた。自分たちの子どもを思ったのだろうか」

確かに、これまでと違った切り口ではある。大胆にいうなら、過酷な体験を笑い飛ばすような試みと

さえ表現されよう。だが、投稿が途切れることはなかった。戦中派に限らず、両親や祖父母からの伝聞に基づく投稿も多い。懸命に生きた日々を伝えたいとの思いが、世代を超えて共感を得られたのかもしれない。

8月15日を過ぎて企画を振り返った際、NHKの担当者が総括してくれた。「全国放送でやると、どうしても話を一般化しがち。だから多くの人々の心には、そこに住んでいる地域の記憶こそが響く。多くの人に届けるには、地域の話題なのだと思う」

コンテンツを広げていくツールがデジタルに移っても、ローカルメディアの存在意義は衰えない。メディア間の新しいコラボレーションが、その信念の土壌を豊かにしてくれるものと信じていた。

(編成部長・デジタル編集担当

高橋 融生)